

〔シンポジウム〕

## 家族看護学，その専門性とは—CNSの活動から— 司会のことば

聖隷クリストファー看護大学

飯田 澄美子

愛知県立看護大学

小宮 久子

看護実践において家族の看護は重要であり，それぞれの領域において家族の看護への取り組みがなされてきた。しかし，その対処の仕方は，歴史的にみると看護の直接の対象である個人の背景にある存在として家族を位置づける場合が多かった。

近年，実践の積み重ねの中から家族そのものを対象とする看護の必要性が指摘されるとともに，北米を中心として発達してきている家族看護の理論や実践モデルが紹介されるなど，新しい領域としての家族看護学に大きな関心が寄せられるようになった。しかしながら，わが国の家族の特性に適合した家族看護学の輪郭は未だ明確にされていないのが現状のように思われる。

そこで，第5回学術集会シンポジウムでは，わが国で誕生して間もないがん看護・精神看護・地域看護の各専門看護師の方々および米国で老人看護CNSを学ばれた方，合わせて4名のシンポジストに，それぞれの領域の実践活動において家族をどのように見ているのか，家族にどのように対処しているのかという活動の現状と課題，および家族の看護や家族看護学についての考え方を述べていただいた。

がん看護専門看護師の近藤まゆみ氏は，患者を含む家族が互いに支えあいながら闘病過程を乗り越えていく事例を提示され，看護者は患者を含む家族と

共に在り，共に歩むことが大切であると述べられた。野末聖香氏は，リエゾン精神看護CNSの活動について話されたが，リエゾン精神看護CNSの役割と組織上の位置づけや働きかけの対象などは，家族看護CNSにも共通するものがあると考えられた。馬庭恭子氏は地域看護専門看護師として訪問看護ステーションにおける幅広い活動を紹介され，患者に選択されるサービスを提供したいと述べられた。森山美知子氏は，看護は実践の学問であるから症例を積み上げていくことが大切であり，看護を社会にアピールしていくことも必要であること，CNSはナースの力を引き出す存在であるべきであり，理論化・構造化の役割を持っていると述べられた。最後に指定発言者として野嶋佐由美氏から家族看護CNSの役割やその教育について話していただいた。

これら各領域の専門看護の理論と実践について話を伺うと，互いに共通しているものがあり，家族看護も共有できる部分があることが分かる。家族看護学においても，わが国の家族の状況に基づいた援助内容，有効な援助スキルを開発し，教育や研修をしていくことが必要であり，本シンポジウムにおいて今後の方向への手がかりが得られたのではないかと考えられた。司会の不手際により時間がなくなり，十分な討論ができなかったことをお詫びしたい。